

文化しま

第42号
[2023年3月]

【発行・編集】
色麻町文化協会
☎0229-65-3110
(色麻町公民館内)
会長 川村保夫



船形山と桜／花川河川公園から撮影した船形山と桜。春はもうすぐ…。



色麻学「小栗山の七不思議」について学ぶから／礫石

世代間でつなぐ歴史と文化

会長挨拶として



色麻町文化協会 会長（やまびこ会）

川村 保夫



早いもので年号も令和に変わって早5年目を迎えました。昨年は2月にロシア軍のウクライナ侵攻が始まり、それに伴って資源価格の高騰や各種資材、原料の供給不足、遅延が生じ、世界経済や我々の生活にも大きな影響を及ぼしております。1日も早く戦争が終結し、平和が訪れる事を念じずにはおられません。

また、令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の流行、オミクロン株による第6波、第7波、第8波の発生に伴い、生活に様々な問題が生じております。

我が町の文化協会のイベントもやむなく中止を決断することとなりました。

明るい出来事は仙台育英学園高等学校が第104回全国高等学校野球選手権大会決勝戦で初優勝し、東北の悲願であった白河の関越えという大喜ばしい感動のニュースです。県民みんなが大きな感激と勇気をいただいたことでしょう。

さて、今年はお卯、四緑木星

の年廻りです。卯年はびよんぴよん跳ねるうさぎの姿から飛躍や希望の年となるといわれています。大いに飛躍できる年と期待せずにはいられません。

令和5年11月11日(土)〜12日(日)の2日間にわたりみやぎ県民文化祭が大崎市美里町を会場に開催されることになりました。開催テーマは「文化の風・歴史の風いま大崎へ」となっています。みやぎ県民文化祭の開催にあたり、大崎文化協会がひとつの和となり、感動・感激・感謝・勇気を届けられるよう現在準備を進めているところです。会員皆様には、町の文化芸術を守りながら、これまでどおり技術の向上を目指し、日々研鑽されますようお願いいたします。

町民の皆様には、この機会に、共通の趣味をもつ仲間と一緒に、文化協会で活動してみませんか。町イベントでの発表や展示など、文化協会が後援いたします。入会はいつでも大歓迎。私たちと一緒に地域文化を育ててみませんか！
結びに日頃より文化協会にご協力とご支援を賜り、心より感謝と御礼を申し上げます。

せせらぎ、歌壇【特選歌】

令和五年一月二十日選

六十年つづけし日記を今日で終う
九十二歳にて悔いることなし

佐藤 宮子

蠟梅の幽かに匂う峡の家の庭に
日ぐせの小雪はららぐ

千葉 修子

紅の椿はみ出る絵手紙に
近くて逢えぬ友と春待つ

早坂とし子

オリンピックの閉会式の郡上節
若き日習えばついで口ずさむ

浅野 はつ

春色のアレンジフラワー届く朝
子等の気持が染みる母の日

佐藤美智子

ひい孫の生まれて八日 顔見れば
心温もり今日も生きなむ

菅原知恵子

今年また箱根路走る孫応援
夫の遺影を傍えに置いて

小松 きよ

花柄のタオルケットを気に入りに
施設の母のおしゃべり止まず

小松れい子

告天子螺旋の声を残しのみ
ポルタヴァの麦萌ゆる朝を

石川 銅

川柳クラブ「田園」

会員作品

古着から染み出る亡母の
愛を着る

早坂 実里

大型店に街の老舗が飲み込まれ
夢のまま飛んではじけた

シヤボン玉
小松 きよ

雨が好きアジサイの声嬉しそう
お疲れと洗って仕舞うコンバイン

戸叶 松子

ひたひたの海でざくざく潮干狩
わだかまり洗い流して無二の友

佐藤 遊子

ゆつくりと朝寝してれば
チャイム鳴る

好き好かれ二つ並んだ夫婦著
鈴木せい子

銭湯に浸かり疲れを湯に浮かべ
死んだふりしてた原発動き出す

リベンジへ身体鍛えるうさぎ跳び
畑山 護

県北部管内文化財 巡回パネル展

宮城県北部教育事務所が主管となり、大崎及び栗原圏域の各市町に伝承されている民俗や芸能等の文化的所産の魅力を発信し、先人たちが暮らしの中から作りあげた文化に触れることで、文化振興と伝承を目的とした巡回パネル展が管内8会場において令和4年10月12日(水)～令和5年3月10日(金)まで公開されています。



大崎市 「深谷神楽(ふかやかくら)」

深谷神楽は、大正14年11月に、大崎市鹿島台深谷の地で不動堂神楽師匠家子元之進、佐藤琢治から伝授され誕生した神楽です。伝授元の不動堂神楽は明治32年頃、遠田郡美里町不動堂の青年達からの要望で、志波姫の南部笹流道神楽師匠鹿野巳代吉から教えを受け発足した神楽で、現美里町地域(小牛田・南郷)で熱心に普及活動を行っていたのが、この深谷の地に伝承された発端とされています。



初代は座長角田養蔵以下10人程で構成されており、品井沼干拓が長年行われてきた場所であることから、収穫が行われる秋には、天の恵みに感謝し、毎年鹿島台地域の祭りの中心的な役割を担ってきました。昭和7年には佐々木勝太郎、荒重雄を中心に2代目跡を継ぎ、芸が磨かれ充実した神楽になっていったと言われています。演目には、三番叟(さんばんそう)、素盞男命(すさのおのみこと)、日本武尊(やまとたけるのみこと)、義経の東くんだり、橋弁慶、一の谷、八幡舞、八太郎、葛葉の別れ、西宮、彦保母舞、両若舞、岩戸開き、鞍馬破り等があります。昭和48年(1973)1月29日鹿島台町指定無形文化財、平成18年(2006)市町村合併により大崎市指定無形民俗文化財に指定されています。

栗原市 「御所楽獅子舞」

栗原市志波姫北郷小糠塚(きたごうこぬかづか)にある八坂神社は、江戸時代中期に現在の志波姫地区に住んでいた清和庄蔵が、伊勢参宮(いせさんくう)の帰路に京都に立ち寄り、祇園(ぎおん)の八坂神社から分霊して現在地に勧請(かんじょう)したものとされています。御所楽獅子舞(ごしよらくしじまい)は、八坂神社の祭典(旧6月15日)に古くから奉納されている伝統芸能です。4曲からなるお囃子(はやし)に合わせ、道化面(みこ)うけめん)をつけた獅子(あやし)1人の所作によって、2人立ちの獅子が巧妙で滑稽(こつぱい)な舞を舞いながらご神体の先走り(さきどり)をします。はじめりの御所楽囃子は法螺貝(ほらがい)を吹きながら悪魔(あくま)を払い、道を清め神を通して五穀豊穡(ごこくほうじょう)を、商売繁盛(しょうばいはんせい)、悪疫退散(あくえたいさん)、福徳円満(ふくとくえんまん)家内安全を祈り舞います。獅子巧囃子(しじょうくわい)は身体堅固(しんたいけんこ)無病息災(むびんいき)を祈るもの、中の囃子は子孫繁栄(こくわんはんえい)、罪(つみ)がれなきように舞い、外の囃子は火難(ひがた)、盗難(たうなん)が起(おこ)らぬように舞うと言われ、伝えられています。



色麻町 「小栗山の七不思議」

小栗山地区に伝わる伝説で、「女石(おなごいし)」「男石(おどごいし)」「団子石」「立石」「涙石」「礫石(つぶていし)」「血の池」の7つで構成されています。7つのうち6つは石にまつわる伝説ですが、本町にも伝説は数々残っています。小栗山の七不思議のように一地域にまとまって残り、「風土記」にも記述があることは珍しいとされます。



ここでは、そのうち2つの伝説を紹介いたします。「女石」は約3メートルの大理石で、中央に割れ目があり、その割れ目に白い鶏を入れ放つと加美町小野田の旭館(石神)から出てくると言い伝えられています。「礫石」は、大男として有名な朝日奈三郎が、川を隔てた向山から蝦夷

加美町 「四日市場甚句」

四日市場甚句(よっかいちばじんく)は、加美町四日市場宿(よつかいちばしゆく)地区で歌われてきました。「甚句」とは日本の民謡の形式のひとつで、基本の歌詞が7・7・7・5調のものをいいます。四日市場宿地区は、加美町を流れる鳴瀬川の左岸に位置しています。この場所はかつて、船着き場として大きく栄えていました。四日市場という地名は、月に3回、4の付く日に定期市が開かれたことに因みます。



甚句の歌詞には、かつての四日市場の様子が歌われています。例えば、「四日市場から積み出す俵(たね)に雀の年貢米」という歌詞は、仙台藩の時代に四日市場の本石蔵(ほんこくくら)に加美郡の年貢米が納められていたことに由来しています。四日市場甚句はいつときは途絶えましたが、保存会初代会長が採譜し46の甚句にまとめて以降、今日でも歌われるようになりました。現在は地区の住民全員が保存会の会員となっており、保存と普及に努めています。昭和53年3月31日に町指定無形民俗文化財に指定されました。

涌谷町 「八雲神社の祭礼」

涌谷町の新町にある八雲神社の境内には、天保(てんぼう)6年(1833)3月に建立(こんりゅう)された疫病(えきびょう)を防ぐ神様である牛頭(ごず)天王(てんわう)の碑(いしぶみ)があります。天保6年頃は洪水や凶作による「天保の飢饉(ききん)」が起(おこ)っていた頃で、疫病も流行し、多くの人々が亡くなりました。碑には「導師称法院(しよほういん) 新町中 新横丁中 河原町中」と刻まれており、周辺地区の方々が厄(やく)から免(まぬ)がれたいという願いが込められていることが分かります。八雲神社はこの牛頭天王碑がある所に建立され、例大祭は7月第4週目の日曜日です。その前日には「かっぱまつり」が開かれます。古くから祭りの時には社殿に「きゅうり」がお供えされ、疫病や水難から逃れることを祈願したことから「かっぱ様」と呼ばれています。



神社や牛頭天王の碑は、新型コロナウイルス感染症など、悪い病気が町で流行(はやり)らないよう、かっぱの像とともに、今なお見守り続けています。

美里町 「馬上蛭崎神社と後藤黒」

仙台城の有名な騎馬像。政宗公の跨る馬に関する言い伝えがあります。美里町内不動堂(ふどうどう)の地を治めた仙台藩藩老の後藤家。その初代に孫兵衛信康(まこべへのぶやす)という武将がいました。信康(のぶやす)は、百姓の新蔵(しんぞう)が飼う黒毛の馬があまりに素晴らしかったので、主君政宗公に献上しました。政宗公はたいそう喜ばれ、「後藤黒(ごとうぐろ)」という名を付けて、たいへん可愛がりました。後藤黒は政宗公とともに戦場を駆け巡り、連戦連勝の功を上げましたが、年老いてしまい、大阪の陣には連れていってやらせませんでした。残された後藤黒は深く悲しみ、仙台城の崖から身を投げて死んでしまいました。大阪から戻った政宗公は、その死を悼(いた)み、落ちた蛭崎(かきざき)の地に祀(まつ)ってその霊を慰めました。



明治初期に、信康と新蔵の子孫がその御霊(みたま)を分けて持ち帰り、不動堂にもお社を建立しました。今なお「馬上蛭崎神社(ばしじょうかきざきんじや)」として大切に祀られています。

郷土学習「色麻学」令和4年度の活動について

郷土学習「色麻学」実施委員会アドバイザー 山形大学名誉教授 佐々木 正彦

皆さん、郷土学習「色麻学」を知っていますか。

「学」がつくと、例えば「物理学」のように、専門的な学問分野を表すことが多く、また、地名に「学」がつくと例えば「水戸学」のように、その地で特異的に育った思想（水戸学の場合は尊王攘夷思想）を指すことがあります。

このようなイメージのせいか、「色麻学」と聞くと、「何か難解そうだな」とか、「何か怪しげな活動かな」とか、「気軽に参加していいのかな」などという印象を皆さんはお持ちかもしれません。

「色麻学」は、決してそのように身構えて参加する活動ではありません。まだ産声をあげたばかりですが、色麻町にある題材を取り上げながら、だれでも楽しんで学び、ふるさと色麻の再発見につながる活動を目指しているものです。

今年度の「色麻学」として独自に実施した活動は、次の

(1)と(2)の2つをテーマで行いました。(3)の活動は(1)の学びの継続として行ったものです。

- (1) 令和4年7月30日(土) [9 : 30 ▶ 13 : 15]
「荒川堰の歴史について学ぶ」
- (2) 同年 10月22日(土) [10 : 00 ▶ 12 : 30]
「小栗山の七不思議について学ぶ」
- (3) 同年 11月29日(火) [10 : 30 ▶ 12 : 30]
「蟬堰隧道の見学」

以下、紙面の関係で極々簡潔に本年度実施した色麻学の活動の紹介をします。

①の色麻学について

とは、江戸時代に工事が行われ、花川上流から松山方面に至る灌漑用水路ですが、昨年度の試行的な活動では、色麻町内に限定して荒川堰について学びました。そして今回は

大崎市三本木まで学習範囲を広げ、堰の全体について学習しました。参加者は26名(他、資料のみ希望者2名)。

座学 外部講師による講演(農村環境改善センター多目的ホール)

現地視察 講師のガイドで大崎市三本木内の荒川堰の隧道

(別名、潜、潜穴) 視察 講演は、小山純氏(NPO 法人あぐりねっと21)と佐々木義治氏(宮城県王城寺原補償工事事務所長)と遊佐浩一郎氏(同技師)により、江戸時代の完成時以降12キロも短くなった理由について、さらに現在の荒川堰の維持管理について行われました。

座学後、マイクロバス2台で現地に向かい現地視察を行いました。

① 多高田潜(荒川水神碑、呑口) 大崎市三本木。安全祈願のための水神碑と隧道の呑口(水の入り口)の視察。



② 中ノ沢潜(水路橋、サイフォン吸込部など) 大崎市三本木。水路橋と高低差を活かしたサイフォンを視察。いずれも江戸時代にはなかったと思われる工法で、かなりの距離のショートカットが可能となったと考えられます。

③ 百間潜(呑口) 大崎市三本木。百間は約180メートルですが実際は168メートルの長さです。かつて色麻の小生も隧道の中に入ったことがあるというのですが、コウモリが多く生息していて苦労したと聞いています。中の状態については本視察の時点では未調査でよくわからない状態でした。



百間潜



水路橋



サイフォンの吸込部

(2)の色麻学について

皆さんは、小栗山の七不思議が6つの石と一箇所の窪地からなっていることをご存知でしたか。参加者17名（現地視察16名）。

座学 講演「小栗山の七不思議について」

「七不思議の伝説と地域の歴史について」講師 早坂一郎氏（色麻歴史訪ね歩き会会長）、遠藤愛実氏（色麻町社会教育課）の講師により、農村環境改善センター多目的ホールにて資料に基づいて概要の説明がありました。

4 団子石 礫石のわきにあるこぶし大の石が多く見られ総称して団子石と呼ばれています。石の内部が「餡子」のような色がついているためその名がついたようです。

5 立石 昔は田んぼの中に立ててあったようですが、文字は刻まれていませんので石碑などではなさそうです。

6 涙石 勾配のきつい南斜面にあり今も湿っています。団子石から東に進んだ斜面にある大きな石です。昔は、常にかがしたたり落ちていたことからこの名前になったとされます。

7 血の池 南山果樹園への道の上方にあり、今は窪地ですが昔は池があり斬首刑を受けた者の血で赤褐色になったと伝えられています。離れたところから視察を行いました。小栗山地区の文化に触れる意味で、最後に「五輪塔」を見学し視察を終了しました。

1 女石と **2** 男石 ともに信仰の対象であり子孫繁栄祈願のシンボルと考えられます。

3 礫石 「つぶて」とは、人が投げる石のことですが、七ツ森や葉菜山の伝説に登場す

る大男、朝比奈三郎が蝦夷に向かつて投げつけた大石であるとの言い伝えがあります。



涙石



立石



礫石



男石

(3)の色麻学について

(1)の事後のアンケートの「江戸時代の工具（石のみなど）で削った跡が残っているのかどうかを確認できないか」という要望を受けて、小山純氏によって三本木方面の隧道の調査が行われました。残念ながら、内部の壁面はすべてモルタルが吹き付けてあったそうです。同氏より荒川堰以外には、例えば、西小野田地区の鳴瀬川本流からの江戸時代の隧道である「蟬堰隧道」(約1キロ)には、

江戸時代の石のみの跡が残っているという情報の提供があり、視察することになりました。参加者は12名。現地協力者2名（NPO法人めぐりネット21 小山純氏・特定非営利活動法人 石母田ふるさと保全会理事長 渡邊哲氏）

石のみの跡のほか「火床」の跡も確認できました。火床とは、火を灯すため



全面に見られた石のみの跡



右の壁にも石のみの跡が生々しい



蟬堰取入口の大石の前で



火床の跡

来年度の色麻学は、歴史的なテーマとは別の分野の活動ができるか検討中です。お楽しみにお待ちください。

色麻の出土文化財展

色麻町農業伝習館資料展示室において令和4年10月1日(土)〜30日(日)までの約1ヶ月間、町内で出土した埋蔵文化財を中心に、国指定史跡「日の出山瓦窯跡」で出土した瓦や須恵器、色麻古墳群で出土した壺や剣など約70点を展示しました。

今回の企画展示では、県指定史跡である念南寺古墳群で発見された「鶏型埴輪」の一般公開を初めて行いました。その他に、町指定文化財の「船形神社十二神将立像」を約8年ぶりに展示し、展示期間中には100名以上の方々に来場いただきました。

今回展示した埴輪は雄鶏の形を模した形象埴輪で、頭に鶏冠のような凹凸があることから雄鶏とされています。令和元年に念南寺古墳で発見されたもので、長さ42cm高さ38cm幅18cm重さ約2kgの一部赤色帯びた明るい土色です。過

去に念南寺古墳で出土した形象埴輪は、人型や馬型、家型などの埴輪片が採集されているのみでした。この鶏型埴輪は概ね当時の形を残したまま発見されました。

このようにきれいに形を残したまま出土した鳥型の埴輪は東北地方、東日本でも大変珍しく、貴重な史料として来場される方々も、興味深く観覧しているようでした。

それでは「鶏型埴輪」が発見された「念南寺古墳」についてご紹介します。

袋地区東端、鳴瀬川に沿った林の中に、こんもりとした小山がたくさんあり、その中で、特に大きいのが「念南寺古墳」と称する豪族の墓と考えられている史跡です。

長さ56m高さ7mで上から見ると、円と縦長の台形を組み合わせた形の「前方後円墳」です。造るには多くの資力、労力と日数を要する事から、

有力な豪族だったと推察され、周辺に

は小さな古墳が22基あり、従った親族や重臣の噴墓と考えられています。

この時代を日本歴史上では、古墳が盛んに造られた時代を意味する「古墳時代」(約3世紀後半〜6世紀半ば頃)として時代区分しています。漁猟採集から農耕牧畜を主とした生産経済へと移行するにつれ、経済力に格差ができ、階級が生じるようになり、とりわけ力のある者が地位を固定させ権力を持ち、その地域を支配したのが豪族といわれる人達で、権威を示すように丘陵に、土を盛り大きな古墳を造ったと文献に記されています。

平成9年、念南寺古墳頂上にあつた薬師堂建替えの際、発掘調査が行われ、周辺から



人・家・馬などの埴輪の破片が見つかり、頂上では家形した石棺が発見されました。



魂を鎮める埴輪が置かれていたことや、東北では木の棺が多く発見されており石の棺は珍しく、当時中央(奈良地方)と繋がりをもった豪族で、5世紀半ば〜6世紀頃に造られた古墳であろうと考えられ、平成4年10月27日に県指定史跡となりました。



これまでコロナ禍のため中止になっていたみやぎ県民文化祭が、昨年度より再開され、やっと自分たちの活動にも再開の兆しが見えてきました。

今年度のみやぎ県民文化祭は令和4年11月26日(土)・27日(日)に気仙沼市本吉町で開催され、町文化協会は移動研修を兼ね会員26名で見学してきました。

令和4年度の開催テーマは「ひびけ かがやけ リアスの鼓動」として、県内各地区から絵画や写真、手芸品、俳句や短歌をはじめとした見事な作品が展示されてありました。全ての作品において日頃の研鑽の成果を見ることができ、今後の自分たちの作品づくりにおいても大変参考になりました。

舞台部門では伝統芸能である神楽をはじめ、舞踊、民謡、合唱など多岐にわたる文化芸術を見学し、迫力あるパフォーマンスに会場がすっかり魅了される程でした。今後の自分たちの活動の糧になったことと思います。

見学を終えてからは、地元で有名な「道の駅大谷海岸」までバス

県民文化祭を見学して

カッパバギ色麻踊り保存会

相澤 玲子

ずらりと並んだ多くの絵画、書道、工芸作品等はどれも素晴らしく、作者の思いが伝わってくるようでした。舞踊や歌謡の舞台発表では、演技者の表情が生き生きしていることが印象的でした。どの団体も、コロナ禍で活動が制約さ

を進めました。バスを降りてすぐ、目の前に広がる青くきれいな空と海が印象的でした。ここでしか買えないおみやげに時間も忘れ、必死でお買い物。名物のソフトクリームも時間ギリギリのところで購入することができ、小学生のように手に持って急いでバスに乗り、目指すは色麻町！バスの中でも会員同士の会話は途切れることなく、車内は憩いのサロンのような感じでした。



気仙沼アマチュアコーラス連合会の発表

れる中でも練習に励んだ様子がかがえました。久々に文化芸術に触れる時間ももち、豊かな気分を味わうことができました。自分たちの地域でも、更に文化活動を深めたいと思います。

文化祭見学だけでなく、食事、買い物、車中での会話等を通して、町文化協会会員の皆様と交流を深めることができたことも大きな収穫でした。

団体紹介

川柳クラブ「田園」

代表 畑山 護(雅号) 新※

クラブの発足は2016年12月13日です。色麻町公民館をお借りして第1回句会が始まりで、当初6名の会員でしたが、1名退会して現在は5名です。文化の香りのする町を目指して作句に精進を重ねているところです。活動内容は会員の持参した作品を添削・意見交換・その他です。

また、1年の区切りとして移動句会(12月)で、年間賞句の発表を行います。場所は「かっぱのゆ」で昼食付きで、受賞者を賞賛し、ますますの発展を期待し、懇親を深めていることです。

その他として作品の展示です。みやぎ県民文化祭への出展です。過去2回参加をしています。2022年は気仙沼市の「はまなすの館」が会場でした。

また、個人的には「かっぱのゆ」及び「清水地区コミセン」に展示中です。広報しまにも掲載中です。これらが主たる活動の状況です。会員を増やすことが最大の課題です。



らくらく編み物教室

会員 三嶋さと子

令和も5年目となり、今年「卯」の年、「飛躍」の年です。は「卯」の年、「飛躍」の年です。よく教室の朝などは我が家の庭先一面に野うさぎの駆け回った足跡が見られるものでした。

私たちの編み物教室は先人達作り上げた温かい教室で長い事続いておりましたが、だんだんと会員が少なくなり、今は5人の会員です。編み物教室の先生は健康を害して辞められましたがその後、会員みんなで続けてきました。

手編みには温もりがあり、暖かく感じられます。古くなった毛糸は何度も編み直して、新しいものに編み上げます。そんなところが手編みの良さでしょうね。

編み物の日はみんなと新しい毛糸を選んだり、デザインを考えたりと会話弾み楽しい一時です。2本の針と、長い1本の毛糸の玉で限りない夢が生まれます。

文化活動も新型コロナウイルス感染症の拡大で何かと活動が制約され文化祭等は中止になりました。

今年卯の年、飛躍の年になりますように祈っております。



色麻女声合唱団 Viente

代表 千葉 元子

みなさんこんにちは。色麻女声合唱団 Viente です。菅原利之先生を指導者に迎え、合唱団を結成して今年で15年目になります。現在は、15名の団員で活動しております。平成27年、平成30年と2度バツハホールで演奏会を行いました。「次はいつ演奏会を。」「声も綺麗に揃って来て女声合唱団らしくなってきましたね」「次回の演奏会を楽しみにしています」と言われ団員一同喜んでいた矢先に：世界的な新型コロナウイルスの感染が始まりました。声を出す「歌」がコロナ感染の一番の「敵」と言われ、その影響で合唱の練習にも影響が出てしまいました。練習は出来るのか？いつまで自粛？ずっと歌えないのか？この先どうなるのか？と不安だらけになりました。練習が無くなる声が出なくなってしまうので自主練習をしましょう等、色々考えましたが無理でした。コロナ禍の中の練習方法はきつとあるはず。新たな練習方法を考えながらやって行こう。現在は、ちょっと難しい？1冊の合唱曲をじっくりと時間をかけ、練習しております。いつか皆様の前で歌う事を願いながら練習しております。マスクしながらの練習で歌いづらいたのですが、帰る時には「歌えて良かった」「合唱はやっぱりいいね」と満足した声が聞かれます。

「またバツハホールで演奏会をしましょうね」と心の中で思いながら、「また来週ね」と笑顔で練習に満足で帰る私です。

No.	部門	団体名	代表者名	地区名	活動・練習日等
1	郷土芸能	カップブギ色麻踊り保存会	佐々木 りえ子	高根	イベント前に練習日を設定し、イベントに参加
2		仙北麦つき踊り保存会	浅野 泰子	下黒沢	4月～11月の期間：月1回
3	短歌	せせらぎ短歌	石川 鋼	志津	毎月第1土曜日
4	歴史研究	色麻歴史訪ね歩き会	早坂 一郎	小栗山	定例会(偶数月), 現地調査等
5	茶道	和あそびくらぶ	小野寺 透江	二反田	毎月第2・3土曜日
6	手工芸	らくらく編み物教室	早坂 志津子	下高城	月2回(水曜日)
7		らくらくパッチワーク	安藤 きくみ	上郷	毎月第1・3月曜日
8	ダンス	色麻町レクダンス愛好会	篠原 和子	上高城	毎月第2・4土曜日
9		フラガールズ	本田 みき子	下高城	毎月第1・3土曜日
10	体操	太極拳クラブ	早坂 順子	南大	毎週金曜日
11		エアロビクス	鈴木 幸子	宿	2月～3月毎週火曜日
12	舞踊	新舞踊 藤枝会	島田 登美枝	道命	自宅教室
13		宮城華僑華人同舟会「色麻組」	角屋 雪	花川沢口	イベント前に練習日を設定し、イベントに参加
14	着付け	和装研究愛好会	今野 俊子	王城寺	毎月第1・3火曜日
15	コーラス	女声合唱団Viente	千葉 元子	一の関	毎週金曜日
16	歌謡曲	カラオケ桃孝会	大泉 和子	新田	個人練習
17		やまびこ会	川村 保夫	一の関	毎週木曜日(自宅教室)
18		うたの会	佐々木 勇一	南大	自宅教室
19	音楽教室	ト音きごうの会	小川 きょう子	道命	月～金曜日週1回(個人練習)
20	パソコン	色麻町パソコン愛好会	加藤 頼子	吉田	毎月第2・4金曜日
21	レクリエーション	色麻町レクリエーション協会	中島 まさよ	吉田	毎月第3土曜日
22	川柳	川柳クラブ「田園」	畑山 護	大原	毎月第3火曜日
23	自然アート	ビオトープ愛好会	加藤 祥文	宿	時期に合わせて活動
24	箏曲	大道派色麻教室	早坂 しづ子	道命	月2回(曜日不定)

※入会を希望する方は事務局までお問合せください。 事務局：色麻町公民館 ☎ 65-3110

令和4年度、文化協会としてコロナ禍の感染防止策等から多くの場面で自粛を迫られ、成果の乏しい活動内容になってしまったことは大変悔やまれることです。

しかしながら、各団体の活動の活性化、コロナ禍以前の練習形態への回復化など喜ばしいこともありました。また、「文化しあいま第42号」を町民の皆様方にご覧いただけたいところにも感謝申し上げます。

ある音楽学院の学院長は、「芸術文化は心の栄養だ」とお話されていました。音楽、演劇、舞踊、美術、映画、アニメーション、マンガ等の芸術文化は、多様な表現活動を通じて行われる創造であり、鑑賞した人々の心に働きかける力をもっているといえます。

芸術文化に触れていると、美しいものに親しめたり、心から楽しんで笑ったりと、情緒豊かな人間性が育まれます。色麻町文化協会も、町民の皆様へ感動や生きる喜びをもたらす、人生を豊かにするものであると同時に、社会生活を活性化する上で大きな力となるものでありたいと思っています。そして、その果たす役割は極めて重要だということに重きを置き、異なる文化活動団体が会の枠を越えて総合的に芸術創造活動への支援、地域の芸術文化活動への支援、振興に取り組んでいきたいと思っています。

来年度は「さなぶり芸能大会」「町民文化祭」等、何らかの形で町民の皆様へ心の栄養をお届けできることを切に願っています。今後とも色麻町文化協会をよろしく願っています。

編集後記

文化協会副会長 小川 きょう子